
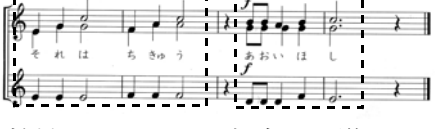


第5学年音楽科学習指導案

- 1 題材 和音のひびきを楽しみながら合唱しよう (6校時・5年〇組教室/第2音楽室)
 2 教材 「それは地球」 長崎 一男 作詞・森 京太郎 作曲
 3 指導に当たっての考え方



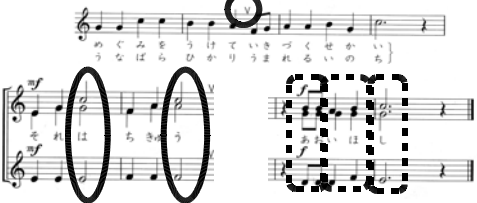
教材分析	
<p>楽曲「それは地球」は、ハ長調の I・IV・V・V 7 の和音が第3・4フレーズに出てくる三部合唱の曲である。</p> <p>特徴的な要素は以下の通りである。</p> <p>和声：第3フレーズから第4フレーズにかけて簡単な三部合唱になっている。中でも第3・4フレーズの前半はリズムがそろい、縦が重なった和音になっており、ハ長調の I・IV の和音の響きを感じとりやすくなっている。さらに第4フレーズの後半では、ハ長調の V・V 7 の和音の響きも味わうことができる。</p>	<p>第3フレーズ</p>  <p>第4フレーズ</p>  <p>以上のような教材であるので三部合唱の導入に適しており、和音の響きを味わいながら、正しく響かせることができる。</p>

児童の実態
<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌を好み大きな口で表情よく歌う児童も多い。また音を重ねて歌うことが好きで、二部合唱には積極的に取り組む。 ○ 様々な曲で二部合唱に取り組み、それぞれのパートの音は数回歌うだけでとることができる。相手の音を聴きながら歌ったり、各パートのバランスを考えながら歌ったりしている。 ○ 高音部は自然な声で歌えるが低音部分を地声で歌っている児童が目立ち、美しい響きを感じることがなかなかできない。また二部合唱には何度も取り組んでいるが、三部合唱は未経験である。

聴く活動を中心とした主な支援	自分の思い	指導内容
<p>曲想や曲の特徴を聴く活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱CDを聴きながら、楽曲の気分を感じとる活動 ◎ 斉唱と合唱の範唱CDを聴き比べる活動 ○ 楽譜を見ながら範唱CDを聴く活動 	<p>つかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名の部分がくり返され、その部分が音が重なっているな。 ・和音の重なる響きを歌ってみたいな。 	<p>和音の響きや変化がある楽曲の特徴を聴き取り、和音の響きを歌で表現したいという思いをもつこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 和音の響きが美しい曲であることをとらえること ○ 和音 (I, IV, V, V 7) の響きと変化を感じ取ること
<p>思いに沿った歌い方を工夫するための聴く活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 階名唱や「マー」で歌い、和音の重なりを聴き合う活動 ◎ 歌詞唱による和音の響きの聴き合い ◎ 思いと歌い方の工夫をした表現の聴き比べ 	<p>深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱や「マー」で歌うと、和音が響いて楽しいな。 ・歌詞で歌っても、響きが出てきたよ。 ・しっかり音をのぼすと、響いてきれいだね。 ・ブレスの位置に気をつけて歌うと、言葉を大切に歌えるね。 	<p>和音の響きを感じ取り、グループごとに歌い方の工夫をして、合唱で和音を響かせながら歌うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 階名唱や「マー」で歌い、和音 (I・IV・V・V 7) の響きを感じ取ること ○ グループにわかれ、歌い方の工夫をすること ○ 歌声が重なる響きを感じ取ること ○ グループごとに歌声を聴いてお互いに高め合うこと
<p>思いを込めた表現を味わい、音楽のよさを感じ取るための聴く活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「夕やけこやけ」の2種類の和音伴奏の聴き比べ 	<p>味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を重ねるって、とても楽しいな。 ・和音を変えると曲の感じも違ってくるのは、おもしろいな。 	<p>和音の響きやよさを感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三部の響きを意識して歌うこと ○ 音を重ねて歌うことのよさや自分達の歌声の高まりを感じる ○ 和音のよさを感じる

題材目標	
○ 和音の響きを感じながら、声を合わせて歌おうとしている。	(関心・意欲・態度)
○ 三部の響きを高めるとともに、歌い方の工夫をしながら歌うことができる。	(感受・表現の工夫)
○ 自然で無理のない声で合唱することができる。	(表現の技能)

4 指導計画(2時間)

	つかむ・深める①	深める・味わう①
ね ら い	和音 (I・IV・V・V7) の響きを感じとりながら、各声部の歌声や全体の響きを聴いて、声を合わせて歌うことができる。	歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫するとともに、自分達の歌声を合わせたり聴き合ったりしながら、和音の響きのよさや美しさを感じることができる。
指 導 内 容	○曲想をつかむこと ◎I・IV・V・V7の和音の響きを正しく歌うこと ◎次時表現への思いをもつこと	◎歌詞で響かせながら歌うこと ○歌い方を工夫して、歌声を高めること ◎録音した自分達の歌声を聴き、音を重ねることのよさを味わうこと ○聴き比べをして、和音のよさに気付くこと
主 な 学 習 活 動 と 内 容	<p>1 楽曲「それは地球」と出会い、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 楽曲を耳で聴いて、特徴を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地球のことを歌った曲であることと、合唱の楽曲であることに気付くこと <p>(2) 斉唱と範唱CDを聴き比べ、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音の重なりのある合唱のよさに気付き、本時の目標を明確にもつこと <p style="text-align: right;">【聴く活動①】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「それは地球」を 音の重なりを感じ取りながら歌おう。</p> </div>	<p>1 前時学習を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 歌詞唱で「それは地球」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞をつけて歌った時に、「マー」で歌った時のような響きが出ていないことを確認すること <p>(2) 教師の範唱を聴き、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫の観点を把握し、本時の目標を明確にもつこと <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「それは地球」を 味わいながら歌おう。</p> </div>
	<p>2 和音の響きを感じながら歌う。</p> <p>(1) 範唱CDに合わせて高音部を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞を覚え、高音部を正しく歌うこと <p>(2) 「それは ちきゅう」の部分进行を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ IとIVの和音の響きを感じること  <p>(3) 「あおい ほし」の部分进行を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ V, V7, Iの和音の響きを感じること 	<p>2 グループごとに表現を工夫する。</p> <p>(1) グループにわかれ、グループごとに工夫の観点を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループにわかれ、自分達の工夫の観点を把握すること  <p>(2) 聴き合い、歌い合いをしながらグループで歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫の観点に沿って歌い、三部の歌声を響かせること <p style="text-align: right;">【聴く活動③】</p>
<p>3 本時学習のまとめとして歌い、次時学習への思いをもつ。</p> <p>(1) まとめとして歌い、本時学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 和音の重なる響きを合唱で感じ取ることができたかふり返り、次時の課題を具体的にを見つけること <p>(2) 範唱CDと聴き比べ、歌い方の工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次時学習は思いをさらに表現できるようにするため、歌詞の言葉を大切にしたり、リズムを正しく歌ったりすることを確かめること <p style="text-align: right;">【聴く活動②】</p>	<p>3 本時学習のまとめをして、表現の高まりや和音のよさを感じ取る。</p> <p>(1) 全員で歌い、歌声を録音する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三部の響きや歌い方を工夫した部分を意識しながら歌うこと <p>(2) 自分達の歌声を聴きながら、本題材の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達の歌声の高まりを実感し、音を重ねることの良さを感じること <p style="text-align: right;">【聴く活動④】</p> <p>(3) 「夕やけこやけ」の和音の付け方を変えたものを聴き比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じふしでも和音が変わると曲の表情も違ってきこえてよいこと 	

5 本時 つかむ・深める段階（1／2）

6 本時の目標

I・IV・V・7の和音の響きの美しさを感じ取り、各パートの歌声や全体の響きを聴きながら、階名唱で合唱をすることができる。

7 準備 教師：範唱 CD（斉唱，合唱，カラオケ），拡大楽譜，縦書き歌詞，電子オルガン
 児童：音楽ノート，筆記用具

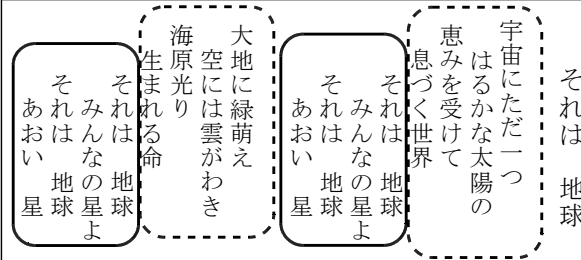
8 本時指導の考え方

本時は、楽曲の特徴である和音の響きの美しさを捉え、正しく歌うことができ、美しい合唱で表現するための具体的な次時課題（表現への思い）をもつことが主なねらいである。

そこで、本時指導にあたっては、次のような手だてをとりながら学習を進めていく。

○ まず、楽曲に出会う場面で、楽譜に着目しながら和音の響きのある楽曲であるという特徴を感じ取ることができるようにした上で、範唱 CD の聴き取りをさせ、本時学習のめあてについて話し合う。【聴く活動①】

【聴く活動①】について

ねらい	手だて	期待する子どもの様子
和音の響きに注目しながら、表現への思いをもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> 耳で楽曲を聴かせる出会いをさせ、地球のことを歌っている曲であることや音の重なりがある曲であることに気付かせる。 斉唱と合唱の聴き比べをさせ、和音の響きがあることに気付かせる。 拡大楽譜を提示し、合唱曲のCDを再度聴かせ、楽曲の特徴に気付かせて、めあてについて話し合うことができるようにする。（【聴く活動②】の楽譜参照） 	<ul style="list-style-type: none"> 地球のことを歌った曲だ。 「それは地球」のところが2回くり返されて、音の重なりがある。 合唱の方が地球にふさわしいな。 音が重なっている方が広治を感じていいな。 はずむ感じの曲だな。 4分の4拍子だ。 3／4フレーズは音が重なっていききれいな。 「あおい地球」「美しい地球」を、音の重なりで美しく歌ってみたいな。

○ 次に、高音部の旋律を歌わせる。その際、児童に不安な音を尋ねながら、電子オルガンで音を確認することができるようにする。

○ その後、3フレーズの「それは ちきゅう」の中・低音部を歌わせる。IとIVの和音であることを確認し、二声の重なりから三声の重なりへと響きを感じさせながら歌声を重ねていく。この際、階名唱をさせたり、マーの音で歌わせることで、正しい重なりを感じさせたい。また、どのパートも歌うことができるように3色カード（担当のパートを色で示すカード）を使いながら全体で歌わせるようにする。

○ さらに、4フレーズの「あおい ほし」の中・低音部も同じように歌わせていく。ここでは、V・V7・Iと和音が変化するおもしろさを、歌う活動を通して確かめる。

○ 最後に、歌詞で合唱を行う。和音の重なった美しい響きで表現できたかどうか判断するために、聴き役をつくり、歌って振り返りをする。その振り返りをもとに、表現への思いにつなげることができるようにするためにはどうすればいいのか考え、次時学習の具体的課題を見つけさせる。【聴く活動②】

【聴く活動②】について

ねらい	手だて	期待する子どもの様子
自分たちの合唱を聴き合い、次時表現に向けての具体的な表現への思いをもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> まとめの歌を歌う前に、合唱で和音の響きを美しく歌うことができたかの視点を与える。 聴き役をつくり、和音の響きの美しさについて評価を行う。 範唱 CD を聴き、さらに表現を工夫したいことについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「それは地球」の重なりはきれいにできたが、「あおい星」は、重ねるのが難しかった。もっときれいに重ねたい。 もっと和音を美しく重ねたい。 言葉を大切に歌いたい。 はずむような感じでリズムをきちんと歌いたい。

9 展開

学習活動と内容 (○)	主な支援・学習活動における評価規準(※)
<p>1 楽曲「それは地球」と出会い、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 範唱CDを聴き、歌詞と和音の部分から、曲名を話し合う。 ○ 歌詞に着目することと、和音の響きに気づくこと</p> <p>(2) 斉唱と合唱のCDを聴き比べ、楽譜を見ながら本時学習のめあてについて話し合う。 ○ 3つの音の重なりがあること、和音の響きが楽しそうであることから、本時のめあてを話し合うこと</p> <div data-bbox="204 533 885 629" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「それは地球」を 音の重なりを感じ取りながら歌おう。</p> </div> <p style="text-align: right;">【聴く活動①】</p> <p>2 和音の響きを感じながら歌う。</p> <p>(1) 範唱CDに合わせて高音部を歌う。 ○ 歌詞を覚え、高音部を正しく歌うこと</p> <p>(2) 「それは ちきゅう」の部分进行を歌う。 ○ IとIVの和音の響きを感じる</p> <div data-bbox="343 913 826 1489" style="text-align: center;"> <p>♩=116-126</p> <p>1 うちゅうに ただひとつ はるかな たいようの 2 だいちに みどりもえ そらには くもがわき</p> <p>めぐみを うけて いきづく せかい うなばら ひかりうまれる いのち</p> <p>それは ちきゅう みんなの ほしよ それは ちきゅう あおい ほし</p> <p>I IV V V7 I</p> </div> <p>(3) 「あおい ほし」の部分の音を歌う ○ V, V7, Iの和音の響きを感じる</p> <p>3 本時学習のまとめとして歌い、次時学習への思いをもつ。</p> <p>(1) まとめとして歌い、本時学習をふり返る。 ○ 和音の響きを感じることができたか、地球のすばらしさを歌い方で表現できているかどうかふり返り、次時の課題を具体的に見つけること</p> <p>(2) 和音の重なり以外にも歌い方を工夫したいことについて話し合う。 ○ 合唱で和音の響きを美しく響かせるための歌い方の工夫について考えること</p> <p style="text-align: right;">【聴く活動②】</p>	<p>・「曲名当てクイズ」を行い、「それは地球」という歌詞が2回出てくること、その部分は音が重なっていることなどに着目させる。</p> <p>・楽譜を提示し、合唱曲を聴かせ、4分の4拍子であること、3・4フレーズが和音になっていることなどに気づかせる。</p> <p>・斉唱と合唱を聴き比べ、後半部分の音が重なっていることに気づき、音が重なるのはおもしろいと気づかせる。</p> <p>※ 自分たちの地球の美しさを歌った曲であることと、それを和音の響きがある合唱曲で表現されていることを感じ取っている。</p> <p>・拡大楽譜と縦書き歌詞で、高音部の旋律や歌詞を確認させながら、3回程度で歌うことができるようにする。音とりが不安定な部分を児童に尋ね、電子ピアノで確かめながら歌うようにする。</p> <p>・和音になっている部分に着目させ、「それは ちきゅう」の部分で電子ピアノを使ってロングトーンで演奏して聴かせることにより、IとIVの和音になっていることに気づかせる。</p> <p>・中・低音部の音とりをした後に、二声で歌わせ、三声につなげる。階名唱やマーの音で歌い、音を確認に取ることができるようにする。</p> <p>・どのパートも歌うことができるように3色カード(パートを指示できるもの)で練習をする。最後は、自由にパート選択をさせる。</p> <p>・三部の音をとった後で、「それは 地球 みんなの星よ」まで歌わせることで、和音の響きを感じさせる。</p> <p>・「あおい ほし」の和音を1音ずつロングトーンで聴かせ、V→V7→Iと和音の変化していることに気づかせる。</p> <p>・各パートは、人数のバランスを見ながら自由に選択させ、自信をもって歌うことができるようにする。範唱CD(カラオケ版)で歌わせる。</p> <p>・聴き役をたて、和音の響きを聴き取らせ、評価させる。</p> <p>・範唱CDを聴かせ、縦書き歌詞と楽譜に戻り、フレーズのまとめや正しいリズムに気づくようにする。</p> <p>※ 和音の響きの美しさを表現できるように歌うための歌い方の工夫を考へることができている。</p>

5 本時 深める・味わう段階（2／2）

6 本時の目標

各パートの音を正確にとり、歌詞の内容や曲想に合った表現を工夫して歌声を高めるとともに、I、IV、V、V7の和音の響きを感じて歌い、和音のよさや美しさに気付くことができる。

- 7 準備 教師：範唱 CD、拡大楽譜、縦書き歌詞、練習の手順表、録音用ビデオ
 児童：拡大楽譜、書き込み用ペン、音楽ノート、筆記用具

8 本時指導の考え方

本時は、グループにわかれて歌声を高め、I、IV、V、V7の和音の響きを感じながら歌い、和音のよさに気付くことが主なねらいである。

そこで、本時指導にあたっては、次のような手だてをとりながら学習を進めていく。

- まず、前時学習をふり返り、本時学習の工夫の観点を確認してめあてにつなげるために、前時学習で歌った「マー」で歌ったものと歌詞唱で歌い比べをさせる。また、歌声をさらに高めるための課題も見つけさせるために、リズムやブレスの位置、拍の長さ、唱法が不十分な教師の範唱を聴かせる。
- 次に、グループにわかれ、聴き役をつくって歌わせ、各グループの表現の工夫の観点を見つけさせる。その際、観点を明確にもって歌う活動に取り組めるように、各グループの拡大楽譜に工夫の観点を書き込ませるようにする。その後、工夫の観点に沿って何度もくり返し歌わせる。歌う時はどのパートでも歌えるように、高音部、中音部、低音部の斉唱で歌わせるようにする。また、グループ活動の途中でグループごとにピアノの前に集め、第3・4フレーズの三部の部分を教師と一緒に歌わせ、賞賛の言葉かけをすることで表現の高まりを感じさせるようにする。
- さらに、抽出グループに歌わせ、グループ間で聴き合いをさせる。他のグループのよいところを見つけ、自分達の歌声にも生かせるようにする。【聴く活動③】。

【聴く活動③】について


ねらい	手だて	期待する子どもの様子
お互いのよさに気付き、自分達の歌声をさらに高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのよさに気付き、自分達の歌声にも反映させるため、よく歌えている部分を教師が取り出し、グループ間で聴き合いをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレスの位置が正しく歌えていたよ。 ・2拍のばすところがしっかりのびていて、遠くまで響く感じがしたよ。 ・自分もその部分に気をつけて歌ってみよう。

- 最後に、歌詞唱で音を正しくとって響かせながら歌うことができたかどうか判断するために、歌声を録音する。その際、今まで練習したことや考えたことをふまえて歌うことができるように、拡大楽譜を指し示し、教師がハンドサインで指示をしながら歌わせるようにする。また、音を重ねて歌うことのよさに気付かせるために、録音した歌声の聴かせ、音が重なることで広がりや響きが増すことに気付かせたい。【聴く活動④】。

【聴く活動④】について

ねらい	手だて	期待する子どもの様子
自分達の歌声を客観的に聴き、歌声の高まりや和音を重ねて歌うことのよさに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の歌声や三部の響きの高まりを感じさせるために、拡大楽譜の書き込みを見せ、課題として練習した部分ができているかどうか自己評価しながら録音したものを聴かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞をつけて歌っても響いていたよ。 ・三部以外のところにも気をつけて歌えたよ。 ・三部で歌った方が音がどんどん重なって行って、とてもおもしろいね。

9 展開

学習活動と内容 (○)	主な支援・学習活動における評価規準(※)
<p>1 前時学習をふり返り，本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 歌詞唱で「それは地球」を歌う。 ○ 歌詞をつけて歌った時に、「マー」で歌った時のような響きが出ていないことを確認すること</p> <p>(2) 教師の範唱を聴き，本時学習のめあてについて話し合う。 ○ 工夫の観点を把握し，本時の目標を明確にもつこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>「それは地球」を 味わいながら歌おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時学習でしたことを想起できるようにするため、「マー」で歌った時と歌詞唱で歌い比べをさせる。 付点のリズム，ブレスの位置，拍の長さ，唱法を意識した不十分な範唱を聴かせ，本時学習の工夫の観点を焦点化させる。
<p>2 グループごとに表現を工夫する。 【聴く活動③】</p> <p>(1) グループにわかれ，グループごとに工夫の観点を見つける。 ○ 各グループにわかれ，自分達の工夫の観点を把握すること</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの工夫の観点を見つけるために，一度歌って確かめさせる。その際，聴き役をたてて評価させるようにする。 工夫の観点を明確にもって歌うことができるように，各グループの拡大楽譜に書き込みをさせておく。
<p>(2) 聴き合い，歌い合いをしながらグループで歌う。 ○ 工夫の観点に沿って歌い，三部の歌声を響かせること</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのパートでも歌えるようにするため，高音部，中音部，低音部をそれぞれ斉唱で歌わせる。 グループでスムーズに歌うことができるようにするため，手順を掲示しておく。 第3・4フレーズのハーモニーを正確にするため，グループごとにピアノの前に集め，教師と一緒に歌わせ，賞賛する。
<p>3 本時学習のまとめをして，表現の高まりや和音のよさを感じる。</p> <p>(1) 全員で歌い，歌声を録音する。 ○ 三部の響きや歌い方を工夫した部分を意識しながら歌うこと</p> <p>(2) 自分達の歌声を聴きながら，本題材の学習をまとめる。 ○ 自分達の歌声の高まりを実感し，音を重ねることのよさを感じること</p> <p style="text-align: right;">【聴く活動④】</p> <p>(3) 「夕やけこやけ」の和音の付け方を変えたものを聴き比べる。 ○ 同じふしでも和音が変わると曲の表情も違ってきえてよいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までにしたことを意識しながら歌えるように，拡大楽譜を指し示しながら教師がハンドサインを交えて指揮をする。 ※ 和音の響きや歌い方を工夫した部分を聴き取り，音を重ねることのよさを感じとっている。 2種類のピアノ演奏を聴かせ，その違いについて考えさせる。 ※ 和音の付け方を変えるだけで曲の表情も違ってくることを聴き取り，和音のよさを感じとっている。